



ものづくり広報

支援活動事例紹介

MDI株式会社 業務内容：温度調整機器（各種工業用熱交換器）及び関連製品の製造、販売

各種展示会への出展により、積極的な技術開発、販路の拡大を図るMDI(株)の取り組みを紹介いたします。

○「国際フロンティア産業メッセ2015」への出展

9月3日・4日に神戸市ポートアイランドで開催された「国際フロンティア産業メッセ2015」に出展し、多数の来場者と意見交換をした結果、現在3件の商談が進んでいます。

社長コメント「来夏の商談をめざし、食品工場などから引き合いが多い関西地区をターゲットに出展したのが功を奏しました。特に関西地区は、お客様とのコミュニケーションが取りやすく、代理店の支援を含め有効であり、かつ商品の導入が関西地区の工場から全国に水平展開され大化けする可能性を持つため、毎年出展をしています。商品の拡販は技術営業によるところが大きく、展示会への出展は今後も継続した営業戦略の一つとして、積極的に展開していきたいです。」

鈴鹿市では、今後も各種展示会開催の情報提供、市役所1階市民ロビー「ものづくり産業展示コーナー」の活用やものづくり企業交流会の開催など、展示会出展に向けた支援を継続的に行っていきます。



▲「国際フロンティア産業メッセ」出展の様子

平成27年度人材育成「集合研修」の結果

平成27年度の集合研修には、ベーシック研修11社23人、リーダー研修9社15人、マネジメント研修5社7人の合計45人の参加をいただきました。

コース	対象	研修期間	内容
ベーシック研修	新入社員及び入社後間もない方	土曜日×3日間	「仕事をうまくする」ために必要な知識を学ぶ
リーダー研修	現場のリーダー及びリーダーをめざす方	土曜日×7日間と平日×1日の計8日間	「仕事の質を高める」ために必要な手法を座学と実践で学ぶ
マネジメント研修	社長及び社長の右腕となる方	土曜日×3日間と平日×1日の計4日間	「先手管理」をするために現状を認識した上で、日常管理と方針管理でやるべきことは何かを学ぶ

○座学で学んだことをグループ活動で身に付けていただきました。

○現場の改善手法を実践で習得していただきました。

○現状認識した上で、当センターの連携機関や他社企業を見学し、自社の強み・弱みを知っていただき、今後取り組まなければならないことを理解していただきました。

○リーダー研修とマネジメント研修では、受講者全員に個人テーマを設定し、自社での実行にあたっては、企業ごとに担当講師がフォロー支援を行います。

「鈴鹿市ものづくり企業交流会」を開催します

鈴鹿市では、市内中小ものづくり製造企業が有する優れた技術や製品について、展示を通じてPRすることで、企業同士でのマッチングの機会を創出することを目的に、「鈴鹿市ものづくり企業交流会」を開催します。6回目を迎える今年は、初めて鈴鹿ハンターを会場にすることで、「キラリと光る わがまちの企業」をサブタイトルに付け、「ものづくりのまち 鈴鹿」を企業関係者だけではなく、市民にもPRします。

◆日時 平成28年1月24日(日) 9時30分～17時

◆場所 鈴鹿ハンター2階特設大催事場

◆主な内容

○企業展示会

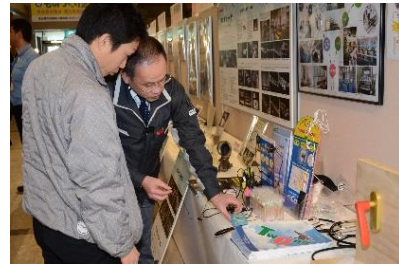
自社の「強み」や「魅力」を広く発信することで、鈴鹿のものづくりの底力をアピールします。

- ・自慢の技術や製品の展示
- ・企業間マッチングを創出します。

○第3回すずか輪ゴムグランプリ

厳しい軽量化やコストを求められる世界の中で培われた市内中小ものづくり製造企業が有する技術と開発力について、輪ゴムという原始的な動力を使った車の制作、競技会を通じて市民に知っていただき、自社の発想、技術、開発力を広くアピールします。

- ・動力源は輪ゴムです。
- ・どれだけ遠くまで走れるかを競います。



▲過去の企業展示会の様子▲



▲第2回すずか輪ゴムグランプリの様子



フォーカス ものづくり

企業の人・もの・技術・地域とのつながりを紹介

有限会社 栄鉄工所

住所：稲生町池之下7990-12

TEL：059-382-1125

FAX：059-383-6578

(製缶・運搬台車・機械設備メンテナンス、塗装等)

今回は、第2回すずか輪ゴムグランプリで脅威の138.6mの記録で優勝した(有)栄鉄工所を訪問し、お話をうかがいました。

本来は鉄を扱う業務ですので、最初は得意な金属で車作りをしたのですが、軽量化できず、数メートルしか走らなかったそうです。

これではだめだと思いながら、思考錯誤しつつ数台の試作車を仕立て、トラックの荷台には実走コースを作り、走行テストを繰り返しながら仕上げていきました。

車体は極限まで軽量化し、ゴムを巻く回数は巻き上げ回数を数えゴム切断の限界を見つけるなど、詳細なデータ収集を重ねてきました。



▲第2回すずか輪ゴムグランプリ優勝車

「こうしたデータを取りながら、理論的にものづくりをするやり方が実務の仕事にもいかされてきているようです」と、社長が語っているのが印象的でした。

さらに驚くことは、車作りは残業時間のみならず、昼間の業務時間も当てられ進めてきたとのこと。社長の理解がなければ、この記録は生まれなかったかもしれません。

1月には第3回すずか輪ゴムグランプリが開催されます。他の強豪チームのエントリーも想定されますが、さらに記録を伸ばして、きっと観客を驚かせてくれるものと思います。



▲優勝車のガイドローラーを微調整中